

いる。インターナショナルセッションが行われるために大会のHPに英文案内を掲示する必要がある、委員会が開催校と共同して作成している。

委員長：鈴木康之，副委員長：村岡亮，委員：泉美貴，石川和信，菊川誠，大久保由美子，藤倉輝道，阪下和美

4. 入学者選抜委員会

平形 道人（委員長・慶應義塾大学医学部医学教育統轄センター）

医学部，医科大学において，明日の医学，医療を担う優れた人材の選抜は，カリキュラム策定，学位授与と並び，重要な医学教育の課題である。各大学が，多くの時間と費用をかけ，学力試験を中心に，小論文，面接，グループ討議，共同作業観察など種々の選抜法に取り組んでいるものの，最善といえる選抜法は明らかでなく，試行錯誤なのが現状といえる。

本委員会は「良き医療人としての資質を備えた人材」，「各大学の入学ポリシーに合う学生」を選抜するための最善の方策やシステムの開発，世界の動向や社会のニーズに応え，わが国の教育システムを踏まえた選抜法について検討し，その情報を発信することを活動テーマとしている。

第17期日本医学教育学会：第45回日本医学教育学会（2013年7月）のパネルディスカッション「今こそ求められるその改革～理想と現実の狭間の中で～」では，「変貌する医歯薬看護系学部入試」「高校，予備校調査による医学部受験生の

動向」「入学者選抜時と入学後の成績の検討」「医学部学士編入入学者の追跡調査」に関する講演を中心に，わが国の医療系入学者選抜の課題と対策について検討した。パネラーと学会参加者との間で，様々な視点から熱く議論された。また，文部科学省科研費基盤B（研究代表者：大滝純司）による国際シンポジウム「医学部入試の課題と改革」（2013年10月）を後援し，現状と課題を国際的視点から検討した。さらに，シンポジウム「特色ある入学者選抜の取り組み」（2013年11月）を開催し，「地域枠選抜」「指定校推薦制度」「医学科AO入試の追跡調査」など各大学の取り組みの検討，「英国の入学者選抜」「multiple-mini interview」など国外の入学者選抜システムの情報共有を実施する。

副委員長：阿部直，瀬尾宏美，委員：井上浩義，浦野哲哉，藤本眞一，森茂久，柴原真知子

5. 倫理・プロフェッショナリズム委員会

後藤 英司（委員長・横浜市立大学医学部医学教育学教室）

当委員会は，平成21年1月から16期，24年1月から17期の活動を行っている。

これまで，「臨床倫理とプロフェッショナリズムの相違点」，「臨床現場における倫理課題への取